フェンシング・JOCジュニアオリンピックカップ
優勝
男子サーブル　江川
女子フルーレ　菊池

江川　颯一

菊池　小巻

JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会が1月7日から10日まで、東京・駒沢体育館で行われ、江川颯一（商2・検見川高）が男子サーブルで、菊池小巻（商1・翔陽高）が女子フルーレで優勝した。

江川は「決勝までいっても勝ちきれない大会が続いていたので、絶対に今大会では勝ちたかった。課題も多く見つかったので、新年度の関東学生リーグ戦に向けて改善をしていきたい」と語った。

一方、菊池は、「この大会は2016年世界ジュニア選手権の代表権を獲得するための大事な試合でもあった。予選から決勝まで、一戦一戦、集中しながらも試合自体を楽しんで、高校3年の時に続いて連覇を達成することができてうれしい」と大会を振り返った。

2人そろってアジアJr.出場

江川と菊池はアジアジュニア選手権（サーブル＝2月19～24日、サウジアラビア／フルーレ＝2月24日～3月1日、バーレーン）の出場が決まった。

菊池は「アジアジュニア選手権や今後のワールドカップなどでもしっかりと結果を残し、日本代表として世界でも通用する選手になりたい」と意気込みを話した。

（菅野啓輔・商1）

▼　ゴールを決め、喜ぶ佐藤僚介（法4、左から2人目）＝立命館大戦

日本学生氷上競技選手権
アイスホッケー部門
ベスト16

日本学生氷上競技選手権のアイスホッケー部門が1月6日から9日まで、栃木県日光市の今市青少年スポーツセンターで行われた。専大は八戸学院大との1回戦を6―1と快勝したものの、立命館大との2回戦はGWS（ゲームウイニングショット）の結果、惜しくも敗れ、ベスト16で大会を終えた。

立命館大戦は、序盤に2点を失う苦しい展開となったが、第1ピリオドに1点を返し、最終ピリオドで2―2の同点に追いつき試合終了。3回のペナルティーショットによるGWSは、一歩及ばず、敗れた。

高橋裕一監督は「最後はよく追いついてくれた。胸を張れる結果だと思う」と選手をたたえた。

ベスト8を目標に臨んだ今大会。その目標は惜しくも達成することはできなかったが、目前まで迫った。

東山哲士新主将（法3・北海高）は「2回戦は勝利を収めることができなかったが、チーム一丸となって戦った」と試合内容を振り返り、「この悔しさをどれだけ生かせるかが課題。先輩たちが培ってくれたものを無駄にせず、専修のホッケーをしたい。来シーズンは今シーズン以上の結果を取りに行きたい」と力強く語った。リーグ戦グループA昇格へ向け、新チームがスタートを切った。

（三嶋毬里衣・経営2＝写真も）

女子4位

テニス・関東大学対抗選手権

関東大学対抗テニス選手権（12月19日～1月17日、亜大テニスコートほか）が行われ、テニス部（女子）が4位となった。

1回戦で日大、2回戦で亜大に見事勝利。敗れはしたが、早大Aとの準決勝、慶大Aとの3位決定戦も接戦が多かった。

清水千夏新主将（人間科学3・幕張総合高）は「悔しさはあるが、リーグ戦に向けて収穫は多かった。2月にも大会があるため、高い意識で臨んでいきたい」と前向きに語った。

次戦となる関東大学新進テニス選手権（予選・2月3日～8日、本戦・2月12日～18日、各大学テニスコート）は昨年度に坂本明香（商3・秀明英光高）が優勝した大会でもあり、今年の出場選手の活躍も期待できそうだ。（峯村竜河・法2）

▶　笑顔のテニス部員たち

野球部始動　松山で合宿

野球部が森山恵佑新主将（商3・星稜高）の下で始動した。2月10日に伊勢原・大山阿夫利神社で必勝祈願を行い、2月22日から3月3日まで愛媛県松山市で春季強化合宿を行う。

合宿中には東芝やJFE西日本といった社会人の強豪チームとのオープン戦が予定され、伊勢原に戻ってからもほぼ連日、オープン戦が組まれている。4年次生が抜け、レギュラー争いは熾烈を極める。合宿の成果に期待したい。

6人が出場
カレッジボウル

1月9日、富士通スタジアム川崎でカレッジボウル2016が行われた。アメリカンフットボール部から関東1部選抜Aチームとして、WR田代和将（法4・狭山ケ丘高）、同梶川陸人（法4・佼成学園高）、LB上原政芳（経営4・足立学園高）、DB飯塚峻輔（文4・日大三高）、同木崎和也（文3・埼玉栄高）、DL青木俊樹（法3・日大三高）の6人が出場した。Bチームの猛攻撃を受け、6―19で敗戦、4年次生は学生最後の試合を残念ながら勝利で飾れなかった。

監督交代

◇アーチェリー部
佐藤孝博氏（平5経営）

◇テニス部
【男子】
鈴木崇司氏（昭61経営）

国際大会出場選手

◇スキー部
馬場直人　2016FIS ノルディックジュニア世界選手権（2月22～28日＝ルーマニア・ルシュノブ）クロスカントリー・日本代表

◇バレーボール部
藤中謙也（経営4・宇部商高）
小川猛（経営3・桐蔭学園高）
有望選手強化合宿・遠征（2月26日～3月8日＝イタリア・ローマほか）

記録コーナー

◇スピードスケート部
▽日本学生氷上競技選手権（スピード部門）【男子1000㍍】池田崇将（経営3・白樺学園高）＝5位【同1500㍍】池田＝6位【同2000㍍リレー】辻本一史（経営1・帯広農高）・池田・青木唯人（経営4・長野高）・小坂組＝5位【チームパシュート】小川・岩下稜（経営1・小海高）・金濱竜聖（商3・光星学院高）組＝6位

◇馬術部
▽六会ホースショー（1月24日、日大馬場）【第3競技松風馬事センターカップTREC競技】鈴木奏穂（文2・江戸川女子高）＝4位

◇陸上競技部
▽千葉マリンマラソン（1月24日）【男子ハーフマラソンの部】浅見眞之（法2・大東大一高）＝4位

Sports カレンダー

◇アーチェリー部
▽全日本学生室内アーチェリー個人選手権　2月26、27日（大阪府岸和田体育館）

◇スキー部
▽全日本学生選手権　2月24日～3月1日（秋田県花輪スキー場）

◇卓球部
▽東京卓球選手権　3月16～20日（東京体育館）

Zoom up

卓球部　田添　健汰（商2）

福岡県希望が丘高／戦型＝右シェーク、ドライブ型／弟・響（商1）も卓球部

全日本卓球選手権の混合ダブルスで3年ぶり2度目の優勝を果たした田添健汰。真の日本一を決めるこの大会において、専大のエースとして風格を見せつけた（本記12面）。

高宮啓監督は「小学6年の全日本選手権で高校生とダブルスを組み、社会人や大学生相手に勝利していた。まだボールに力はなかったが、打つ直前まで相手の動きを見て、動きの逆方向に球を打ち込んでいた。小学生でこんなプレーができるのかと驚いた」と振り返る。才能を認められ、中学時代はJOCエリートアカデミーで腕を磨いた。

攻撃に磨きをかけ　目指すは五輪出場

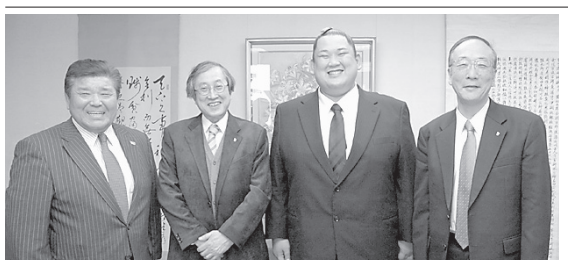
高校3年の時にはインターハイ団体とダブルスで優勝し、専大でも入学直後から強烈なドライブを武器に存在感を発揮した。1年次ながら5月の春季関東学生リーグ戦で優秀選手賞と最優秀新人賞を獲得。サフィール国際オープンではアンダー21クラスで優勝し、世界にもその力が通用することを見せつけた。2年次になると勢いはさらに増した。9月の秋季関東学生リーグ戦では殊勲賞など3つの個人賞を手にする活躍を見せ、男子卓球部11年ぶりのリーグ戦優勝に大きく貢献すると、翌月の全日本大学総合選手権のダブルスでも郡山と組み、優勝した。

そして、大学3年目となる2016年。本人は「自分の課題はフォアの精度とバックの前陣攻撃」と語る。

高宮監督は「真面目な性格で安定感があるのがベスト8を目標に臨んだ今大会。その目標は惜しくも達成することはできなかったが、目前まで迫った。

東山哲士新主将（法3・北海高）は「2回戦は勝利を収めることができなかったが、チーム一丸となって戦った」と試合内容を振り返り、「この悔しさをどれだけ生かせるかが課題。先輩たちが培ってくれたものを無駄にせず、専修のホッケーをしたい。来シーズンは今シーズン以上の結果を取りに行きたい」と力強く語った。リーグ戦グループA昇格へ向け、新チームがスタートを切った。

（三嶋毬里衣・経営2＝写真も）



元幕内・大道　引退し親方に

大相撲元幕内の大道（本名、中西健二さん＝平成17経営）が1月21日、引退し年寄「小野川」を襲名した。今後は阿武松（おうのまつ）部屋付き親方として後進の指導に当たる。

小野川親方は2005年春場所で初土俵、10年春場所で新十両、11年名古屋場所で新入幕を果たした。幕内には連続13場所在位し、最高位は東前頭8枚目。

1月27日、親方は蒲田重勝相撲部監督と共に神田キャンパスを訪れ、引退と襲名を報告。日髙義博理事長と矢野建一学長が長年の労をねぎらった。親方は、専大の校章とマスコットキャラクター「センディ」をあしらった2つの化粧回しで地方巡業に行くと「専大出身か、頑張れと励まされました」と振り返った。

「精いっぱい努力して、やり尽くしました。幸せな相撲人生でした。専大の皆さんの応援が励みになった。これからは自分が、専大と専大に関わる人を応援していきたい」と笑顔で語った。

6月4日、両国国技館で断髪式を行う予定。

▲　右から矢野学長、小野川親方、日髙理事長、蒲田相撲部監督